

— 所沢飛行場ものがたり —

国産飛行機の初飛行

明治 43 (1910) 年 12 月 19 日、日本における動力飛行機の初飛行が東京代々木練兵場においてアンリ・ファルマン機を操縦する徳川好敏によって成し遂げられました。翌年開場した所沢飛行場においては、国産機による初飛行に成功しました。

国産飛行機「奈良原式二号」の初飛行

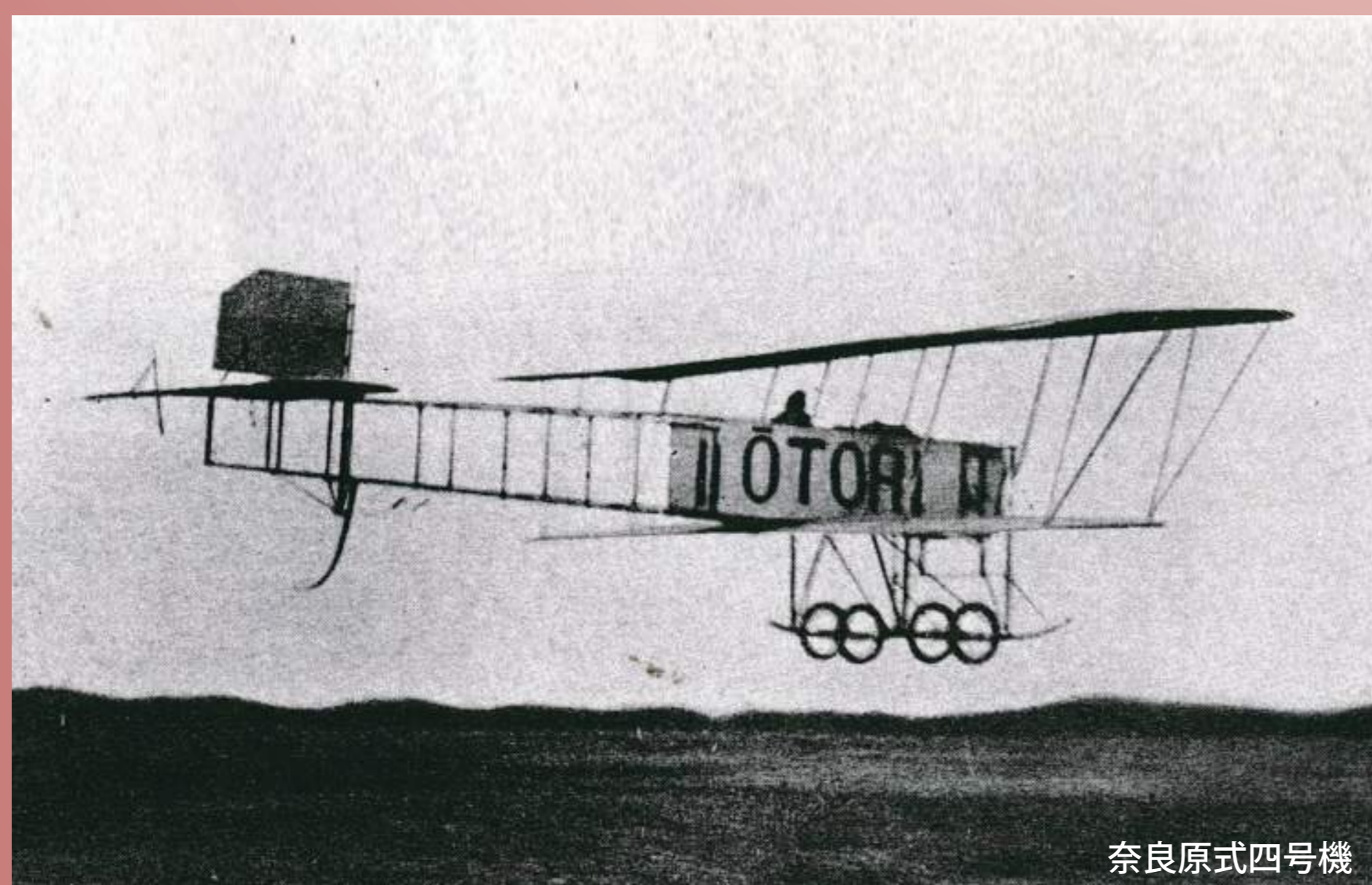


奈良原式二号機

海軍造兵中技士奈良原三次は奈良原式二号飛行機を私的に製作し、所沢飛行場で明治 44 (1911) 5 月 5 日に初飛行に成功しました。自ら操縦したその飛行記録は高度 4 m 距離 60m で最初の国産飛行機の成功となりました。その後民間航空に専念するために海軍を去り研究会委員も辞して、所沢町寿町の大和屋金物店の離れを借りて住み、飛行機製作に専念、明治 45 (1912) 年 3 月には四号機(鳳号)を完成させ、所沢飛行場で飛行しています。

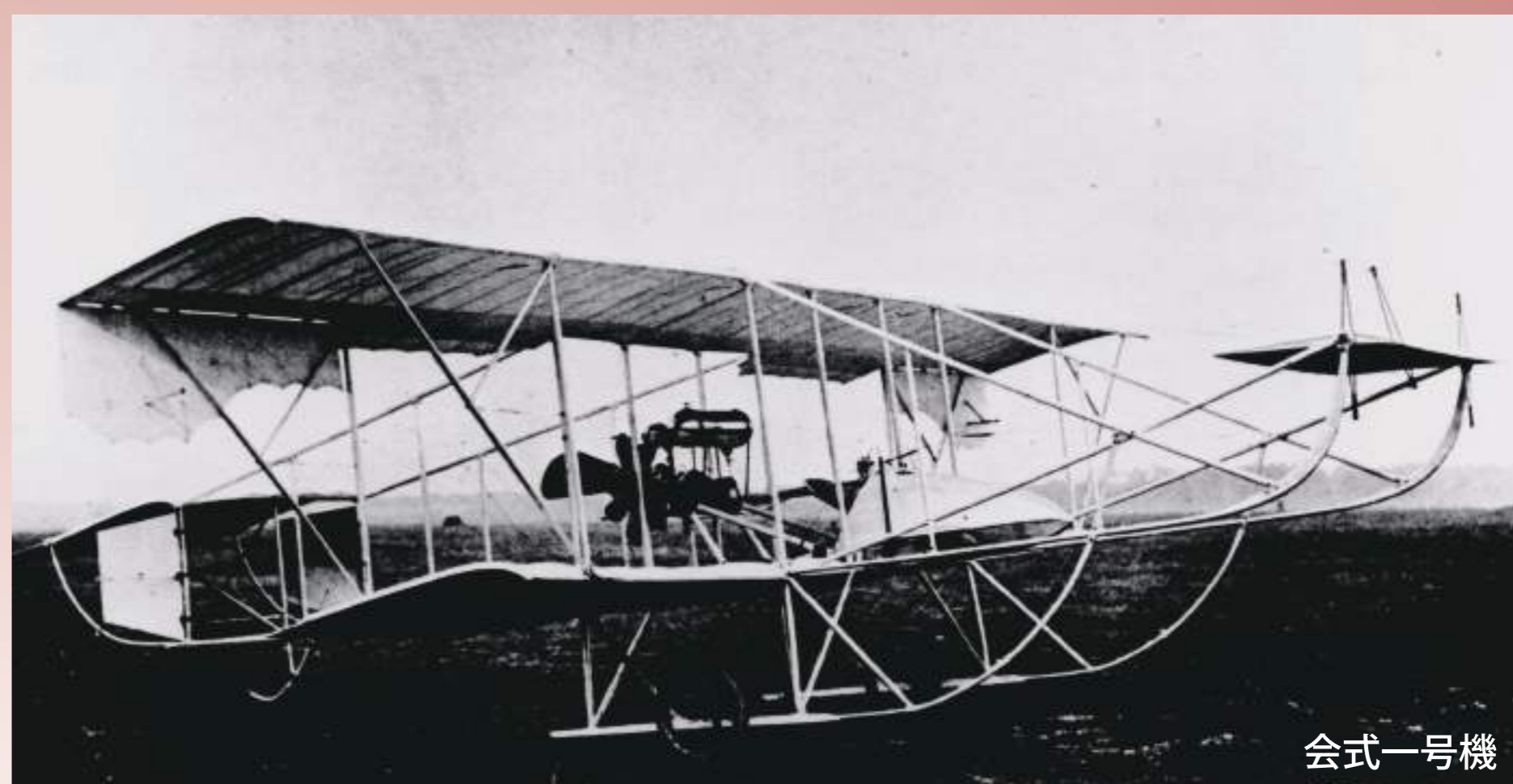


奈良原三次



奈良原式四号機

初の国産軍用飛行機「会式一号機」の完成



会式一号機

臨時軍用気球研究会は、徳川大尉、日野大尉がフランスとドイツで買い付けた、

- ①アンリ・ファルマン複葉機
- ②ハンス・グラデー単葉機
- ③ライト複葉機
- ④ブレリオ単葉機

の上記四機がやがて使用できなくなる時期を見越して、国産軍用機の製作を開始し、徳川好敏大尉がその主任設計者となりました。アンリ・ファルマン複葉機を参考にして所沢の格納庫で約 4 カ月を費やして製作されたこの飛行機は、研究会の初の国産機であることから



会式一号機上の徳川大尉

研究会の「会」を採って「会式一号機」と名付けられました。

明治 44 (1911) 年 10 月 13 日に会式は所沢飛行場で国産軍用機として初飛行し、その後同月 25 日には高度 85m 距離 1,600m 速度 70 km/h を記録してアンリ・ファルマン機を上回る性能を示しました。その時のことを徳川大尉は「炎暑の候に、蒸し暑い格納庫の中に立てこもった製作員一同が、新設計図を中心に苦心惨澹、ある時は製作のためせつかくの製品も破棄するなど、百難百出の困難と闘ったあげく、遂にこの試験飛行の結果を得たのであるから、私が試験飛行を終えて着陸、機から下り立ったときには、製作員一同、機に駆け寄ってきて、歓喜の極、みんな泣きだしたのである。その時の涙は今だに忘れることができない。」と自著に綴っています。